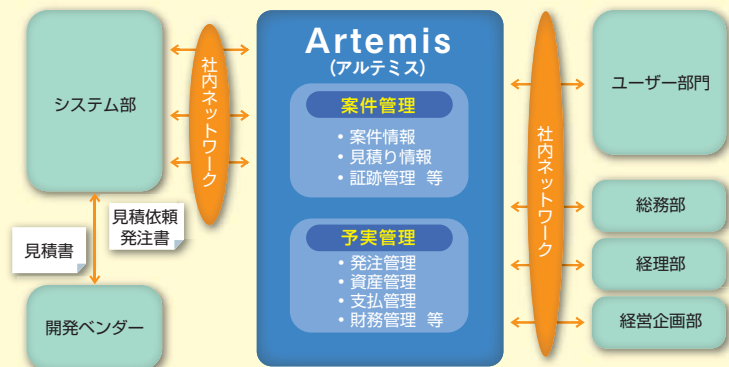


三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

- 取締役社長 兼 最高経営責任者 / 秋草 史幸
- 本社 / 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

三菱UFJフィナンシャル・グループの証券業中核会社。2010年5月1日モルガン・スタンレーの日本法人であるモルガン・スタンレー証券株式会社と経営統合。モルガン・スタンレー証券株式会社のインベストメントバンキング業務を統合し、商号を三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社に変更。

創業 1948年3月4日
 資本金 30億円
 従業員数 6,877名(2010年5月1日現在)
 国内営業拠点数:本支店87(2011年3月14日現在)
<http://www.sc.mufg.jp/>



IT特別賞(IT推進部門賞)を受賞

同社は今年2月に開催された「第26回IT戦略総合大会(ITMC2011)」(主催:社団法人企業情報化協会)にて、「IT特別賞(IT推進部門賞)」を受賞した。情報推進部門の活動や取り組みについて、複雑な環境下でIT統制を確立し、同時にシステム関連支出にかかる申請決裁の大幅な事務効率化を実現したことが評価された。

求められる、投資コストの適正化

激変する金融業界のなかでも、とりわけ証券業界は景気変動の影響を受けやすく、業界の再編が進んでいる。三菱UFJモルガン・スタンレー証券も1948年の創業以来、度重なる合併により成り立った経緯があり、システム構成の複雑化に伴い、システム開発や運用に課題をかかえていた。

同社には約300のシステムがあり、システム部門には、ユーザー部門から多くの開発や改修の申請が寄せられる。その数は大小合わせて年間2万件にもおよび、期初に策定するIT投資(開発計画から、開発依頼、決裁、発注、開発、支払い、資産計上、コスト賦課までの一連の作業)に関わる負荷は膨大であった。

また、ユーザー部門からの開発依頼についても、投資の整合性、妥当性、コストの適切な配賦などについて確認ができない状況があった。

そのため、開発依頼とその費用を案件ごとに詳細に見積もり、投資審査が的確に実施されるようにすること、ユーザー部門が詳細なコスト情報を確認できるよう「見える化」することで、投資コストの適正化を推進することにした。同時に、従来は紙であった申請決裁をワークフローシステムとすることで、大幅な作業効率の改善を図ることとした。

システム投資計画管理システム「アルテミス」

2006年、システム投資計画管理システム「アルテミス」構築プロジェクトがスタートした。システム開発案件の計画から財務・管理会計に関する業務の標準化と、それらの情報を一元管理するためのシステムである。

当初、パッケージツールの利用を検討したが、経営層から出された「機能を適度に分割し、順次、着実にリリースすること」という課題はパッケージでは困難であり、検討の結果、開発実績のあるインテックをパートナーとし、要件定義から実施することになった。

要件定義では、業務プロセスを可視化して最適なワークフローを構築するため、「開発・運用」、「財務会計」、「管理会計」のそれぞれの担当が社内ビジネスルールを抜本的に見直した。元々業務担当者はおぼろげに無駄や改善すべき事柄を認識してはいたが、具体化できていなかった。そのため、まず業務プロセスを分析し、各自の作業を標準化し自動化できるプロセスを洗い出した。

その後、システム部門はIT側からの業務プロセス改革を提案し、ユーザー部門と検討した。インテックはこれまでの開発経験に基づき、ユーザー側、システム側双方の視点で、現場担当者だけで見逃しがちなポイントを

指摘するなど、様々な観点から要件を分析した。

その結果、会計管理機能を備え、支払・財務・資産・付替(配賦管理、減価償却管理等)・進捗(契約・予算・実績)を登録管理でき、周辺システムとの連携も可能なシステムを実現することができた。また、ユーザー部門においてもシステム開発投資を吟味する習慣が一気に浸透した。

経営資源の有効配分と運用効率化を実現

リーマンショックなどによる環境変化もあり、全般にシステム投資は抑制される傾向にある。同社では情報の「見える化」により、ユーザー部門で、真に必要な投資を絞り込むとともに、システム部門でも投資金額の妥当性の判断と適正な見積が行えるようになった。併せて、各種申請書類の電子化による省力化効果として年間1億円程度を試算している。

また、予算実績分析についても大幅な迅速化が達成できた。とりわけ、システム投資案件から財務会計管理会計にいたるまでの情報の一元管理を実装し、効率化・可視化を達成していることは、例を見ないシステムだと同社では考えている。

今後は、ユーザビリティの向上はもとより、経営情報管理のインフラとしてさらに発展させていく。



社団法人企業情報化協会からIT特別賞(IT推進部門賞)を受賞 システム投資管理業務の効率化・高度化への取り組み

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

インテックをITパートナーに、システム投資コストの合理化・適正化を目指す

三菱UFJモルガン・スタンレー証券では、システム投資案件に関する申請から決裁、財務会計・管理会計に至る情報の一元管理を実現するシステム「アルテミス」を開発した。コスト情報を可視化することで、ユーザー部門のシステム投資に対する意識を高め、システム投資コストの合理化と適正化を目指している。各種申請書類の電子化で年間1億円の省力化効果を見込んでいる。



三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
 システム統括部 内部統制課長 遠藤 修氏

2006年から4年かけてようやくひとつの形となり、今回IT戦略総合大会での受賞につながった。当初、経営層からは、「機能を適度に分割し、順次リリースでの活用を繰り返して、着実に推進すること」「運用にあたってはユーザーをきちんとサポートして利益実感を持たせること」と要請をうけていた。IT主導の業務プロセス改革として、インテックには導入当初から「この機能があれば、ユーザーが使いやすい」「こうした方が、シンプルに運用が回る」等、色々ユーザー目線の解決策をご提案頂き、頼もしかった。今後も両社の連携を密にして質の高い安定したシステムを展開していきたい。